

大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

〒319-1112

東海村村松2401-2

oona_toukai@yahoo.co.jp

3月議会
一般質問から

住民のいのちとくらし、経営を守る村の防波堤をさらに高く、強固なものに

大名：

今議会の質問も今日が最終日です。今日の社会情勢や課題、本村のあるべき姿など、各議員それぞれの立場から語られ、執行部とのやり取りで見えてきたのは、今の深刻な経済危機の影響は本村住民のくらしにも確かに及んでいるということです。そして今後ますます広がるだろうということです。

私は、今、日本社会が直面している「未曾有」と言われるこの経済危機は、人為的な「『カジノ資本主義』の破綻」から来るものであること、また、この危機に立ち向かう政治の基本的姿勢として、1つには、「カジノ資本主義」のツケを雇用や中小企業にまわすことは許さない、このことを政治の責任としてしっかりおこなうこと、2つには、こうした時だからこそ経済政策を大企業応援型から、家計と国民生活応援型に切り替え、内需主導の健全な経済に転換していくこと、この認識と立場が重要と考えます。

そして深刻に陥った経済危機のもとでくらす住民と、最も身近な地方自治体の役割は一層鮮明になっています。住民のいのちとくらし、経営を守る防波堤をさらに高く、強固にしなければなりません。日本共産党は、「住民こそ主人公」「住民のくらし最優先」が信条です。東海村の防波堤を高く強固なものにし、村民の苦難軽減に力をつくしたいと考えます。

その立場を表明して一般質問をおこないます。

村長の政治姿勢を問う

JCO臨界事故から10年の年、原子力事故から住民の安全を守ることを願って何を考えるか

大名： 1点は、JCO臨界事故発生から10年の節目の年にあたっての所感です。

日本における原子力発祥の地でおきた国内最大の原子力事故、JCO臨界事故の痛苦の教訓に学び、風化させてはならないと当時、日本中で確認されました。その最大のものが、原子力の安全神話を払拭することでした。しかし、その後明らかにされた東電の事故隠しなど、電力会社の利益優先の姿は、原子力事業がいかに未確立で、危険と背中合わせで進められているかを示しました。

村内でも、原電東海第二のトラブル続出や、燃料製造会社の作業ミスや火災発生など、対策がとられたとはいえ、日々の安全確保が万全か、監視と指導の強化が求められていることを示しました。

東海村で今後の原子力問題を語るとき、JCO臨界事故と、今起きている諸問題にどう学んで、どう対応し住民の安全を確保するか、この立場なしには語れないのではないのでしょうか。

更にもう1つ忘れてならないのは事故による健康被害、被ばくの問題です。近隣住民、救護に駆けつけた東海村消防職員、水抜き作業に当たったJCO職員のその後の健康状況について、事故との関係で説明されたものが公表されていないと認識していますが、こんなことで教訓に学ぶことができるのか、疑問です。

こうしたことにも目を向けての所見を伺います。（答弁は次号でご報告いたします）

東海みなみ日本共産党後援会で新春交流会ひらかれる



3月28日(土) 大子町福寿荘において、後援会の交流会がひらかれました。21名の参加で、09年になって初の会合だったことと、3月議会閉会の直後でしたので、私からは、議会の様子を詳しく報告させていただきました。